5th 前橋文化推進会議

第 5 回アーツなカフェ「アーツ前橋の話をしましょう」
2013 年 7 月 19 日（金）/ アーツ前橋 1 階 カフェスペース

市民 + 前橋文化推進会議 + アーツ前橋

◇ HP　http://maebun.web.fc2.com/　◇ facebook　http://www.facebook.com/maebunsui　◇ twitter　http://twitter.com/MaeBunsui

■ はじめに

◆ 前橋文化推進会議は、『アーツ前橋』を中心に、「市民の手によって／新たな文化を生み出し・支え、維持し／発展させ、発信していくこと」を準備するための市民会議です。

◆ アーツなカフェは、前橋文化推進会議がご用意する、市民と市民の対話の場、市民と行政の対話の場、市民と文化・芸術の対話の場です。

◆ 第 5 回アーツなカフェ「アーツ前橋の話をしましょう」
主　　催：前橋文化推進会議・アーツ前橋
日　　時：2013 年 7 月 19 日（金）午後 7 時～
場　　所：アーツ前橋 1 階 カフェスペース
参加人数：約 40 名

◆ 配布資料：
・アーツ前橋の話をしましょうメニュー（カフェ進行次第）
・アーツなカフェ及び前橋文化推進会議に関するアンケート

◆ 過去のアーツなカフェ
第 1 回：「アーツなカフェって、なんなん？」
日　　時：2012 年 10 月 21 日（日）午後 1 時～
場　　所：元気 21 中央公民館 55 学習室
参加人数：約 50 名

第 2 回：「今から考えなくっちゃいけないこと」
日　　時：2012 年 12 月 15 日（土）午後 3 時 30 分～
場　　所：元気 21 中央公民館 42 アトリエ
参加人数：約 40 名

第 3 回：「アーツなトーク　市長とアーツをアツく語る。」
日　　時：2013 年 2 月 25 日（月）午後 7 時～
場　　所：元気 21 中央公民館 51/52 学習室
参加人数：約 120 名

第 4 回：「クリエーターと話すカフェ」
日　　時：2013 年 5 月 18 日（土）午後 1 時 30 分～
場　　所：元気 21 中央公民館 55 学習室
参加人数：約 60 名

5th 前橋文化推進会議

第５回アーツなカフェ「アーツ前橋の話をしましょう」
2013 年 7 月 19 日（金）/ アーツ前橋 1 階 カフェスペース

◇ HP　http://maebun.web.fc2.com/　◇ facebook　http://www.facebook.com/maebunsui　◇ twitter　http://twitter.com/MaeBunsui

文推

第 5 回 アーツなカフェ

住友文彦氏が館長に就任し、プレオープンが始まったアーツ前橋。館長や担当学芸員を招いて、今回の展示やこれまでのプレイベント、これから始まる事業の話しを聞いて、みんなでアーツ前橋の話しをしましょう。

『アーツ前橋の話しをしましょう』

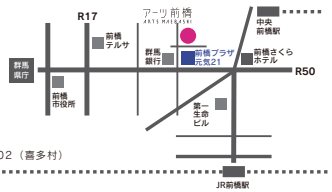
■2013年 7月 19日(金) 19：00～（20：30 修了予定）
■アーツ前橋１F　カフェスペース
■対象：どなたでも
■定員：先着 50名（当日会場へお越し下さい）
■参加費無料 ＊カフェ参加者は次の駐車場は無料です（元気２１駐車場、城東町立体駐車場、前橋中央駐車場、五番街立体駐車場、千代田町二丁目駐車場）
■簡単な飲み物とお菓子を用意します。ちなみに、カンパ大歓迎！！

●カフェを運営するサポーターも随時募集しています！！（このサイトの「お問い合わせ」からご応募ください）
●カフェではチラシやフライヤー配布 OK なので、ライブやコンサート、公演、イベントなどの告知されたい方、ぜひチラシ類をお持ちください！

CITIZEN'S COUNCIL
FOR CULTURAL PROMOTION
OF MAEBASHI CITY

前橋文化推進会議

《前橋文化推進会議サイト》http://maebun.web.fc2.com/index.html
《facebook》http://www.facebook.com/maebunsui
《twitter》http://twitter.com/MaeBunsui
《アーツ前橋》http://artsmaebashi.jp/



問い合わせ先／アーツ前橋　027-230-1144・当日問い合わせ／090-944-8902（喜多村）

＊第５回アーツなカフェ　チラシ

第５回アーツなカフェ / 主催：前橋文化推進会議 / 共催：アーツ前橋／2013 年7月19日（金）午後7時～ ／ アーツ前橋１階

5th 「アーツ前橋の話をしましょう」

市民 ＋ 前橋文化推進会議 ＋ アーツ前橋

住友文彦氏が館長に就任し、プレオープンが始まったアーツ前橋。
館長や担当学芸員を招いて、今回の展示やこれまでのプレイベント、これから始まる事業の話を聞いて、みんなでアーツ前橋の話をしましょう。

- アーツ前橋館長あいさつ
- これまでの事業について
  - ・プレイベント
  - ・プレオープン展
- これからの事業について
  - ・グランドオープン
  - ・コミッションワーク
- フリータイム
  本日のカフェをとおして知り合った
  みなさんと交流するフラットな時間です。

アーツなカフェは、前橋文化推進会議 が提供しています。

■ 前橋文化推進会議は、『アーツ前橋』を中心に、「市民の手によって／新たな文化を生み出し・支え、維持し／発展させ、発信していくこと」を準備するための市民会議です。

■ アーツなカフェは、前橋文化推進会議がご用意する、市民と市民の対話の場、市民と行政の対話の場、市民と文化・芸術の対話の場です。

■ facebook、twitter への投稿はOK。写真撮影もOKですが、主催者以外の参加者の顔を外部に出す可能性がある場合は、必ずご本人に許可をとってください／ビデオ撮影、音声録音はご遠慮下さい。また、本日はUstream 中継を予定しております。もし画面に入りたくない方は、開始前に確認いたしますので、その旨、ご表明お願いいたします。

情報交換、出会いの場です！　　持参したチラシはカフェテーブルに置いてください！

◇twitter　http://twitter.com/MaeBunsui　◇facebook　http://www.facebook.com/maebunsui　◇HP　http://maebun.web.fc2.com/

＊第５回アーツなカフェメニュー（次第）

登 壇 者　　住友文彦 氏（アーツ前橋館長）
　　辻　瑞生 氏（アーツ前橋学芸員）
司会進行　　中島美江子（前橋文化推進会議委員）
　　栗原沙苗（前橋文化推進会議委員）

◯あいさつ

住友文彦館長（以下、住友）：７月１日にアーツ前橋設置条例が施行して館長に就任しました。３年前、施設の設計前から計画に関わっていて、今まで、あっという間でした。この施設がこんな場所になったらいいなというものが少しずつ形になろうとしていますが、実現できていないことがたくさんあります。そのなかの大きな一つが、どうしたら地域の人たちに 50 年、100 年支えていってもらえる芸術文化施設になるのかということです。多くの美術館や芸術文化施設に関わるなかで、初めの期待感、オープンしたあとの多くの人が新鮮に楽しんでくれる気持ち、設置者がずっと支援し続けるのがいかに難しいことかを体験してきました。これは、全国、世界が抱える問題です。海外の美術館は、そのために色んな工夫をしていますが、どこかに良い例があるわけではありません。それらを勉強して、私たちが前橋方式をつくることで実現したい。

（アーツ前橋は）とても若い組織だと思っています。年齢的にもそうですが、考え方の面でも若い思いで運営に臨みたいと考えています。その分、多くの人たちの知識や経験を注入してほしいと思っています。それが前橋方式に近づくことになると思っています。

中島美江子（以下、中島）：館長就任とプレオープン展開催おめでとうございます。お二人の今の率直な気持ちをお聞かせください。

住友：この仕事に関わったのが昨日のことのように思えるほど、あっという間でした。中身が濃かったのもありますが、前橋のプロジェクトがおもしろいと思ったから時間も情熱も注ぐことが出来ています。東京で多くの美術の仕事をしてきて、クリエイティブなことができる条件というのがあると思っています。その条件が前橋にはそろっている気がします。この街の文化や土壌があったので、今の仕事ができています。

辻瑞生学芸員（以下、辻）：プレオープンして、ようやく始まったと思うと同時に、開館展に向けて準備もしているので、まだ始まっていないんですよね（笑）今日の準備をしていて昔のように感じる反面、あっという間という思いがありますが、グランドオープンをして初めて振り返ることができると思っています。

＊カフェの様子／アーツ前橋１階カフェスペース

○プレイベントがもたらすもの

中島：これまで数多くのプレイベントをしてこられましたね。私が初めて関わったイベントは〈ねじっこ〉*でした。あれから３年弱の間、どのようなイベントをしてきたのですか？

＊美術館プレイベント vol.1　おやこでねじっこ（カフェ cabo ／ 2010 年 11 月 23 日）

辻：ミニギャラリー千代田や文学館、臨江閣などをつかった収蔵品と若手作家の展示や出品作家と子どもが一緒に身体を大きくつかうワークショップ、アートスクールなどですね。

　アートスクールは、20 人前後の受講生によるゼミタイプのスクールです。アーツ前橋に長く関わってくれるサポーターの研修や私たちが苦手な広報を助けてもらいながら、地域やイベントの魅力を紹介するスクールなどです。

住友：美術に関心のある人やない人、年齢層の違いなど、様々な対象者を考えるのですが、〈ねじっこ〉のように子どもや家族で参加できるものを重視してきました。長くアーツ前橋に来てくれる人をつくることを大切にしています。もちろん若い人たちの好奇心は僕らにとって刺激的で重要なのですが、子ども向けや家族向けのイベントは長い目でみたときに効果があると思っています。

　それから、アートスクールを実施してきました。これには半年間で６回も参加するので、受講する人たちはアーツ前橋に深く関わりたいと思っている人たちです。プレオープン展には現在、４千人近くの人が来てくれていますが、僕らは全ての人の顔を見ることは出来ません。一方、アートスクールの参加者は少数なので、その人の個性や関心も分かって、顔が見える関係が作れます。そういう関係を築くため、早い時期からアートスクールを実施してきました。

中島：開館前からプレイベントを行うのは全国的にも珍しいと思います。経済的な費用対効果で考えると、まぁ…ないようにも思えるのですが（笑）、そこを敢えてやる狙いについて教えてください。

住友：90 年代以前に出来た美術館ではあまり実施していないと思いますが、2000 年以降にオープンしている美術館の多くはプレイベントを行っています。90 年代以降、日本が経済だけで成り立つ国ではなくなってきて、文化的な豊かさを求めるようになってきたので、芸術文化に関心を持つ人の割合はすごく増えているんです。そういう人たちにどういう場所でどういうことが行われるのかを少しずつ知らせる手段として、プレイベントは効果があると思っています。場をつくるという点では建物も重要なのですが、芸術文化はソフトなので、ソフトをつくること自体が美術館をつくることだということを、プレイベントを行うことで伝えることや、どのようにして進んでいるのかを地域の人たちが触れる機会を増やせることに意味があると思っています。

中島：展示や講演など、見たり聞いたりするだけでなく、実際に体験できるものが多いですが、皆さんに主体的になってもらいたいという思いがあるのですか？

辻：そうですね。アートは、私たち学芸員や一部の人だけでつくるものではないので、自分たちが主体的に関わっているという意識を大切にしてもらえるように考えています。

◯空き店舗を市民活動の拠点に

中島：現在進行中のプレイベントで〈マチリアル〉がありますが、これはどういったものですか？

住友：街のリアルという意味を込めて〈マチリアル〉というプロジェクトを行っています。始まったばかりのプロジェクトなのですが、空き店舗を改装して市民活動の拠点にしてもらうという企画です。ガラス張りの開放的な場所なので、そこで活動することで街の人と接点を持つことを重視したいと思っています。その点が一般の公民館とは違うものです。学校の部室は学校の拠点ということができると思うのですが、それが街の中にある。それは学校に所属するのではなく、地域に所属する。そういう気持ちをつくっていこうというのが〈マチリアル〉です。街のリアルというプロジェクトなので、地域にあるそれぞれの課題に、政治やビジネスではなくクリエイティブなかたちでアーティストが関わっていければいいな、と考えています。

中島：現在、どのくらいの人が関わっているんですか？

住友：正式登録は３団体です。登録方式にしていて、地域の方を顧問にしてもらって正式に登録になります。今は、群馬大学の留学生と仕事をしている人たちのグループが登録を検討してくれています。

中島：これからも希望すれば〈マチリアル〉に参加できるのですか？

住友：申込書に記載されている条件を満たしてもらえれば登録できます。非営利で行っている地域の市民活動であることも条件の一つです。

◯時間をかけてつながっていく

中島：５月頃から街の中で〈ハーブマンプロジェクト〉という活動を展開されていますが、これはどのようにしてスタートしたのですか？

住友：〈ハーブマン〉は、ガーデニングプロジェクトの活動のひとつです。前橋は郊外には緑がありますが、街中には公園がなかったりして、緑が少ないように感じていたので、街のなかにもうちょっと緑を増やしたいと思ったんです。緑を育てるのは時間がかかるのですが、それがとても重要だと思っています。芸術文化の振興をしようとしてもイベント的にはできません。色んな人が関わって長く付き合っていけるように協働で育てる活動をやれたらいいな、と。〈ハーブマン〉とは、ランドスケープ・アーティストのアースケープが街中にあった空き地にみんなで薬草を人型に植えるプロジェクトです。イベントをすると若い人たちが反応してくれるけど、薬草だとお年寄りが持っている知識が必要なって、世代を超えた交流が生まれる。地元商店街の人が毎月マルシェを行ったり、音楽のライブが行わ

れたりしています。みなさんがつかってもらえる場をつくるというプロジェクトです。

中島：様々な事業を行うことで交流が生まれていると思うのですが、具体的なエピソードはありますか？

住友：昨日ちょうど街の人たちと〈マチリアル〉のミーティングをしたのですが、そのなかで街中には座る場所がないという話になりました。

〈ハーブマン〉を実施している空き地にはウッドデッキがあって、そこに家具が設置してあります。暑い中、座る場所がないときにウッドデッキや家具がある。この家具は、街の人にいらなくなった家具を提供してもらってリサイクルして作ったものです。アーティストがデザインしたので普通の家具とは違うけれど、街のなかで足りないものや出来たらいいことに応えていく。アーティストは、みんなが思っていることを行動に移したり、かたちにしたりする能力に優れている人が多いので、街の人たちも感じていることを顕在化してくれる。街の人と話をする、それをかたちにするときにアーティストやクリエイティブな仕事をしている人と一緒に何かできる。この連鎖が繰り返されていくことを望んでいます。

中島：街の方が植物の世話をしてくださったりしているのですか？

住友：僕たちはすごくラッキーで、〈ハーブマン〉のすぐ横の喫茶店の方がとても薬草に詳しかったんです。僕は薬草に詳しくないので色々と教えてもらいました。

今のアーティストたちが新しいことをしようとするとき、それをみんなが助けることができる。現存の作家だから一緒にものを作ったり、場に参加できたりする良さがある。地域の人たちが手を貸してくれるんです。色んな人たちが関わってくれる場をつくるうえではすごく嬉しい。

住友館長

○内覧イベント／市民と協働し多様な文化を発信

中島：アーツ前橋のミッションでも、地域や街とのつながりを重要視していますね。〈ハーブマンプロジェクト〉もそういう効果を生み出していると思います。一方で、市民が企画や運営に関わる仕組みづくりも進めていますね。3 月にアーツ前橋の施設をつかっておこなわれた内覧イベントは、前橋文化推進会議と協働で開催し、市民参加を実現できたイベントだと思うのです。企画に市民組織が関わったことでもたらされたものや良かった点、苦労された点などを含めて感想をお願いします。

住友：美術館に足が向かない人の多くは行き慣れていないからなんですが、一度行ってしまうと知っている場所になる。開館前にいろんな人たちが足を踏み入れる機会をつくりたいと思ったんです。なので、ただ建物をみてもらうだけではなく、イベントもやろうと考えました。建物は 12 月に完

成したけど備品が入っていない状態でしたので、開館して事業が始まってしまうとできないことをしたかった。二日間で展覧会をやるのは難しいので、パフォーマンスやダンスなどがよいと考えたのですが学芸員のなかに専門家がいない。でも、地域のなかには専門家はいるんです。学芸員のノウハウや経験が届かないものは地域の人にどんどん関わってもらいたいと思っています。それで文化推進会議のメンバーと話し合いながら、こういう人、ああいう人がいるという意見をもらいました。パフォーマンスの組み立てについて、僕もだいぶ意見を言いましたが、かなりのところは学芸員ではない人たちが試行錯誤して決まっていきました。

ただ、それがクリエイティブであるかについて責任をもたなければならない部分です。あのイベントが重要だった点は二つあります。
一つは、この建物の隅々までみてもらう演出をする。これはとても難しいことなんです。演劇やダンスはステージがあって成り立っているので、それを取り払うと演者はどこを向けばよいのかが分からなくなり演出が難しくなるのですが、それをクリエイティブなチャレンジとしてやってみようとした。

もう一つは、プロの演者と素人が混じるということです。身体芸術の大きな流れのなかでは、訓練された一部の身体を愛でることが重要視されてきたが、90 年代以降少しずつずれてきて、訓練されていない一般の人の身体を要素にして演出する流れがあります。それを前橋で実現させたいということ。この二点を実現するために様々な衝突はあったが、そのねらいは是非知ってもらいたいですね。

中島：多様で質が高い芸術文化を推し進めるというミッションは、内覧イベントでは達成できていたのではないかと思います。

栗原沙苗（以下、栗原）**：**内覧イベントをみて多様さを感じることができました。その一方で質の部分についてお話を聞かせてください。

住友：芸術の流れ＝歴史があります。そのなかで積み上げられた様々な表現の実験が多様性だと言えます。表現の仕方が多様であることが何故良いのかと言うと、色んな人の個性が生かされることが重要だと考えるからです。いろんな価値観があることに気付くことが、多様な価値観を持つ人が共存していくうえで重要だから、芸術は多様性を重視するのだと思うんです。内覧イベントで先ほどの二つのことを実現することが、歴史に照らし合わせたうえで、ある質をつくることだと思うのです。

もう一つは、発表の機会をつくるということ。高校生のブラスバンドが、普段とはまったく違うステージのない場所で演奏をした。バレエのダンスをやっている子たちがバレエではない身体の動きをすることをした。それは今すぐに彼らの表現の次のステップにはならないかも知れないが、今回の経験がいずれ葛藤を生み、彼らの（表現の）質を上げると思うのです。それは時間がかかることかもしれない。闇雲にやるのではなく、出来るところでもう少し違うトライをやってみようという思いを後押しすることが、重要だと思っています。

栗原：一般的には、質の高さは敷居の高さにもなりがちだと思うのです。それは、芸術が敬遠される要因にもなっていますが、そうはなっていないのがアーツ前橋は良さだと思います。その点について工夫されている点を

聞かせてください。

住友：コアな質問ですね。僕らが一番工夫しないといけないのはそこだと思っています。芸術文化は敷居が高いと感じる人の多くは、作品を理解しないといけない、背景を知らなければいけないという思いがあると思います。それが芸術作品から人を遠ざけていると思います。

そのため、なるべく体感できることを重視したいと思っています。言葉は必ず助けになるのだけれど、生きていくうえで言葉にならないものはある。それを大切にしたい。プレイベントで参加したり体験したりするものが多いのは、そのような理由からです。理解するというよりも、感じるとか身体を動かすことが敷居を低くする工夫として挙げることができます。

辻：これまでのプレイベントに参加してくれた方たちがまた参加しやすい状況をつくるとともに、参加した人たちの友達や周りの人たちが来やすい状況をつくるように意識をしていました。

栗原：内覧イベントのパフォーマンスでは、来た人たちがしゃべりあっていたりして、人が空間の一部になっていたように感じました。普通の美術館では、作品と観客が切り離されているように感じるんですが、あのパフォーマンスではみんな動きながら取り込まれている感じがして、そこが新しいところだなと思いました。

住友：学芸員は、作品の保護もしなければならないのですが、どこかで作品主義になり過ぎなところもあります。極論ですが、作品保護のためには展示しないのが一番よい。でも一番大切なのは人なんです。見る人がいて初めて作品をおもしろいと感じてもらえるのだから、見る人や来る人が主人公になる場所をつくれたらいいなと思っています。

○プレオープン展／過去と今に光を当てて、未来を照らす

中島：現在開催中のプレオープン展について聞かせてください。

展示を拝見したのですが、新しいものだけではなく、近代洋画が展示されていたり、前橋のアイデンティティを大切にしている気持ちが伝わってきました。担当学芸員として、込めた思いや伝えたいことなどをお聞かせてください。

辻：前橋市が収蔵している作品の多くは、近代洋画や日本画です。地域ゆかりの作家だから興味もってもらえたり、その逆もあります。これまで前橋には作品を紹介する美術館や施設が少なかったので、紹介する機会も少なかった。今回のように展示をして観ていただくとともに、きちんと調査して紹介してくことで全国的にも評価を得ることができる作家もいると思っています。そのような思いで展示しています。

中島：ここは元西武デパートでしたが、学芸

辻学芸員

員として、この施設の空間をどのように受け止め、展示に生かしたのかを聞かせてください。

辻：おもしろい場所だと思っています。近代の作品を展示するとき、照明を抑えることで、作品に重々しさを演出することがあるのですが、今回は現存の若い作家の作品とあわせて展示するので、両方をフラットにみてもらえるように、照明についても全体的に明るくなるようにして、空間に合う展示を心がけました。

栗原：アーツ前橋では写真撮影ができるのが他館と違うところだと思いました。今回の試みはどのような意図によるのですか？

辻：美術館などで写真撮影が難しいのは、作品保護のためや作家の遺族から許可を取るなどの技術的な部分、撮影した写真を改変してしまう可能性などが考えられるからです。ただ、アーツ前橋では共有することを活動のコンセプトに掲げています。見たことで感じた気持ちを自分だけで持っておくのはもったいなくて、誰かと話したり共有したりした方が広がっていくと思うんですね。他の人の意見を聞いたりすることによって、自分とは違った意見があることを知ることができる。なので、今回は撮影 OK にして、思ったこと感じたことを facebook のシステムをつかって伝えてください、という仕組みにしました。

今、参加したいといってくれているのは 85 名ほどいるのですが、実際の投稿は 7 名くらいなんです。ここにいる方も是非参加してください。

中島：写真を撮ることは、自分がその展覧会をどのように切り取るのかを考えるので、漠然と見るより一歩主体的な感じがしておもしろいですね。

今回のプレオープン展では関連イベントもありますね。お勧めがあれば教えてください。

辻：今回のプレオープン展では「からだが語る」をテーマとしているので、身体を意識したものをイベントに据えています。出品作家の村田峰紀さんは、直接見ることができない自分の背中に描くという身体表現をしているんですが、それを子どもたちに体験してもらうイベントが 7 月 25 日にあります。他にもアートヨガというイベントがあります。美術以外に興味のある人にアーツ前橋にいくきっかけになって欲しいと思っています。絵（作品）をみることは、それまでの感覚や考え方に変化をもたらす可能性があるですが、ヨガのなかに逆転のポーズというものがあって、それをすると発想が変わるという話を聞いたんですね。共通点があるなと思いました。

中島：アーツ前橋の三つのコンセプト「創造的であること／みんなで共有すること／対話的であること」を意識してプレオープン展を準備されたんですか？

住友：コンセプトを具体的な事業のなかに落とし込まないと実現しません。どうやれば実現できるのかを考えながら事業をつくっています。

先ほど写真撮影について話がありましたが、今は試験的な段階で撮影許可を継続するかは未定なんです。現実的な問題として、改変などのリスクがあります。撮影を許可している美術館もあるのですが、みんな試行錯誤

しています。でも、アーツ前橋の試みがきっかけで、作品を掘り下げて鑑賞する人が増えて、感想を共有する仕組みとして「いいね」と言ってもらえるようになったらよいと考えています。

○いつでも会える作品

中島：今見ることができるアーツ前橋のコミッションワーク（制作委託）について教えてください。

住友：展覧会は２～３か月で変わっていきますが、常にある作品を魅力的にしていくことで、その作品を見にいこうという人がいつでも来れるメリットがあります。制作を委託するので、作家といろんなコミュニケーションをして、この地域の歴史や文化を反映してつくってもらうことができます。そして、ここにしかないオリジナルな作品になります。

このカフェスペースの作品はストリートに絵を描くプロジェクトで知られている TokyoDex というグループのもので、メンバーの笹井あかりさんは前橋出身です。彼らは制作過程を撮影することで、絵を描くこととコマ撮りアニメのような映像を同時につくることをしています。この作品は萩原朔太郎の作品の擬態語や擬音語「ぴかぴか」「ちょうちょう」などからインスピレーションを受けた彼らの世界観を描いてくれた作品です。

他には、館内からは見られないのですが、アーツ前橋の建物を屋上看板（14 × 7 m）が、空の大きな写真になっています。芸術文化施設ができてもさまざまな理由で来ることができない人たちがいます。母子家庭の子どもたちもそうです。前橋にある母子家庭の支援施設の子どもたちとミラノに住むアーティスト（廣瀬智央）と空の交換日記をしてもらいました。文章が下手だと日記は書きづらいけど、空は、子どもでも簡単に撮影ができるうえ、天候や雲のかたちなどおもしろいものが撮れるので、気軽にできるのが理由です。その交換日記のなかから大きく引き伸ばしたものが屋上で見れるようになっています。アーカイブスペースのモニタでも見ることができます。

それと、山極満博さんの作品が千代田通り沿いにあるんですけど、ご存知の方いますか？

参加者：よくみないと、わかりにくいよね（苦笑）

住友：子どもが手を放してしまって木の枝に引っかかったような風船があるんです。しぼんだり飛んでいったりせずに、ずっとあるんです。実は、FRP（繊維強化プラスチック）で出来ている山極さんの作品です。そこの場所に自分以外の誰かがいるかもしれないという気配を伝える作品をつくっています。この他に館内に幾つか作品があるのですが、敢えて全部は言いません。

中島：10 月のグランドオープン以後にみれるコミッションワークもあるのですか？

住友：展覧会と構えなくても、こういう表現に触れる機会を増やしたいと思っています。オープンまでに二点ほど増やせたら、この施設のひとつの魅力になると思っています。

○グランドオープンに向けて

中島：グランドオープンに向けて、用意しているイベントはありますか？

辻：off-Nibroll というアーティストユニットによる「ダンスで時計」というプロジェクトがあります。今、館内には時計がないんですが、そこに設置する時計をつくろうというものです。時間を刻むよりも時報的役割を果たす時計です。参加していただくと、参加した人の顔や身体、ダンスした様子が館内で見てもらえます。

中島：参加した自分の姿がアーツ前橋で映し出されるということですか。

＊インタビュー形式のカフェトーク

住友：そうです。ある時間になると自分や家族、友達がダンスしている映像が流れたりする時計になります。設置場所は調整中です。楽しみにしていてください。

それと、いろんな活動に参加してくれるサポーターを募集しています。一つは、募集は締め切ってしまっているのですが、休館日や閉館時間に学校単位で子どもがおしゃべりしながら、自由に作品を鑑賞する「おしゃべりアートツアー」の案内役になってもらう人たちです。サポーターの活動をしながら参加を呼び掛けることを年に４回おこなう予定です。

辻：マエバシ文化発信局です。昨年は「うしろあるき」という冊子をつくったのですが、今回は映像をつくるコースです。締め切ってしまっていますが、参加した人たちの視点で街や前橋の魅力を映像にするスクールが始まります。

住友：ダンスのパフォーマンが２回あります。off-Nibroll の講演が８月３日に地下のギャラリーであります。８月 31 日に村田峰紀さんと舞踏のダンサーの鈴木ユキオさんがそれぞれ公演をおこないます。どちらも無料です。９月に前橋市内で開催される風のまち音楽祭とあわせて音楽の公演をやる予定です。こういった情報を逃したくない人はアーツ前橋のホームページに登録していただければ、随時情報が届きますのでご利用ください。

中島：興味のある方は是非参加してください。

プレオープン展が始まり、みなさんの関心はグランドオープンに向かっています。開館記念展はどのような企画内容を予定しているでしょうか？

○過去と未来をつなぐ

住友：開館の記念展は、この施設の性質や方向性を大きく印象づけるものですから我々も議論して悩みながら考えてきました。多くの美術館は名品・巨匠展を打ち上げ花火のようにしますが、アーツ前橋はこの地域の芸術文化を発信していくことをやりたいと思っています。美術作家に限らず、科学者、音楽家などいろんなクリエイティブな能力をもった前橋ゆかりの人がいることを知ってもらう展覧会にしようと思っています。偉人からインスピレーションを受けた新しい作品を展示することができたらいいと思っています。そして、地域ゆかりの絵画などが一緒に並ぶことで前橋の文化的なアイデンティティや魅力を発信できるような展覧会を準備しています。

今後の活動でも特徴にしていきたいのですが、過去と未来をつないでいく企画を館内で実施して、街と直結している立地を生かして館外に出ていく地域アートプロジェクトの成果を見せたいと思っています。

○ 100 年後を想像する

中島：最後に、アーツ前橋のコンセプトを踏まえて、どんな施設にしていきたいのか、どんな施設になっていって欲しいのかを、お二人から一言ずつお願いします。

辻：関わり方はいろいろあると思います。その人その人が関われる関わり方で関わっていただいて、前橋にアーツ前橋があることを誇りに思ってもらえるような施設になっていったらと思います。

住友：芸術文化を振興してくことは時間がかかるものだと思っています。50 年後、100 年後、自分たちがここに生きていたことを残すことができるのは芸術文化の力だと思う。前橋という街にどういう魅力があったのか、どういう人たちが住んでいたのかを残すときにいろんなメディアはあるけれど、芸術作品はすごく大きい気がします。それは、東日本大震災のときのように突然日常が切れてしまったときに感じられたことだと思います。昔の風景を描いた絵画が人をすごく感動させるという体験をしながらアーツ前橋の開館を準備したので、50 年後、100 年後、前橋という土地にどういう文化が育つのかということを、是非、みなさんと一緒に話をしたり、新しい作品をつくる後押しをしたりしていきたいと思っていますので、今後も応援をよろしくお願いします。

中島：お二人の話しを聞いていると色んな体験や刺激を受けることができる施設になる確信を得ました。一部の関係者だけがつくるのではなく、一般の市民の方が関われる仕組みが館に用意されているので、積極的に主体性をもって関わっていくことで、アーツ前橋を創造していきたと思います。

ありがとうございました。

■ 第５回アーツなカフェ：アンケート結果

前橋文化推進会議
2013.7.19

アーツなカフェに関するアンケート

前橋文化推進会議では、開館へ向け『アーツ前橋』の魅力を市民に発信するために、推進会議の検討内容やプレイベント等の周知及び開館後の広報活動を行っています。今後の活動の参考にするため、以下のアンケートにご協力ください。

① なにを見て、アーツなカフェを知りましたか？
該当する項目をチェックしてください。（複数回答可）
□ちらし　□ポスター　□ facebook　□ twitter　□文化推進会議ＨＰ
□前橋市ＨＰ　□広報まえばし　□新聞（　　新聞　）
□関係者から誘われた　□友人知人
□その他（　　）

② アーツなカフェに参加した回数を教えてください。該当する回数にチェックしてください。
□初めて参加する　□２回目　□３回目　□４回目　□５回目

③ 今後の前橋文化推進会議に最も期待することは何ですか？
該当する項目をチェックしてください。（複数回答可）
□市民周知の広報活動　□企画運営の側面支援　□市民参画の仕組み作り
□市民対話の場の創出　□多様で質の高い芸術文化（アート）の振興
□その他（　　）

④ 第６回アーツなカフェで開催してほしいことはなんですか？
（例：ワークショップ、講演会、マルシェ　etc…）

⑤ 本日のカフェのご感想、ご意見、ご質問等がありましたらご記入ください。（足りない方は裏面へ）

ご協力ありがとうございました。
（＊無記名によるホームページ等への転載　可　・　不可　）

氏名（必須）：

住所：〒　　**電話番号：**

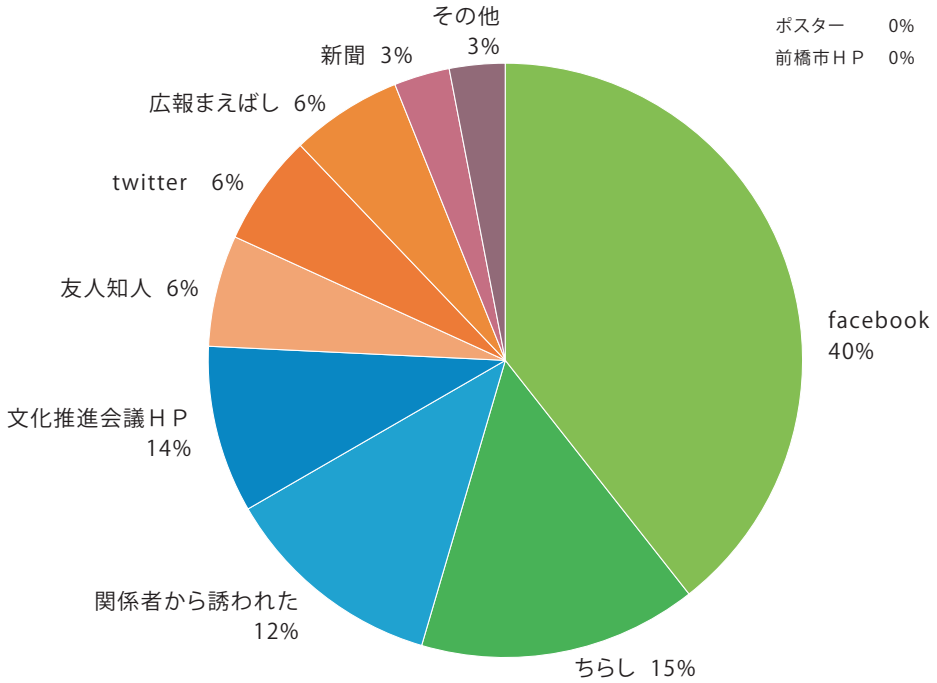
メールアドレス：

（前橋文化推進会議が運営するメーリングリスト【ブンスイＭＬ＊】への登録を希望する方は、記入してください。）
お預かりした個人情報は、今後の前橋文化推進会議並びにアーツなカフェ運営の参考とさせていただく以外、使用いたしません。

＊ 2013 年 10 月 26 日に前橋にオープンする『アーツ前橋』と市民をつなぐ、前橋文化推進会議（ブンスイ）が運営する、メーリングリストです。アーツなカフェにご参加いただいたみなさんに、ブンスイの取り組みやアーツ前橋関連の情報をお届けします。また、皆さんの関わる芸術文化活動の広報にもご自由にご利用ください。
＊この ML はアート・文化活動の告知を目的とするものなので、議論はお控えくださるようお願いいたします。

＊当日配布した第５回アーツなカフェ　アンケート：配布 38 ／回収 22

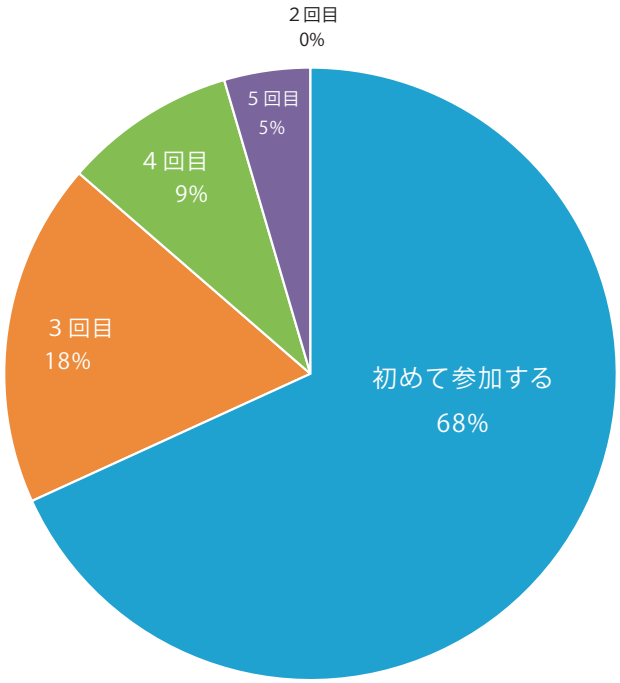
① なにを見て、アーツなカフェを知りましたか？（複数回答あり）



アーツなカフェ参加者の 60%が SNS（facebook、twitter、HP）をとおして情報を得ています。

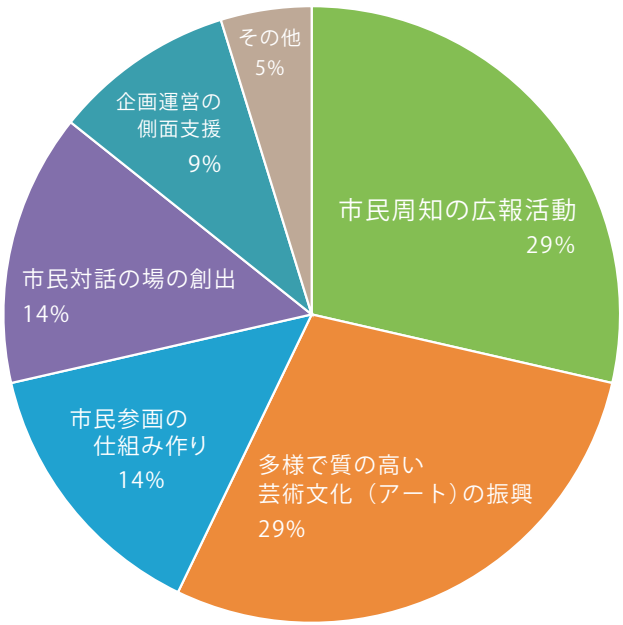
第４回のアンケートでは 58%だったので、ほぼ横ばいですが、紙媒体をとおして参加した方は 24%で、第４回の 21%に比べると僅かに増加しています。ポスターを見て参加した方が 0%だった点は改善が必要だと考えます。今後も SNS と同じく広報物での周知に力を入れていきます。

② アーツなカフェに参加した回数を教えてください。



第４回のアンケートでは、複数回参加の方が 55%だったのに対し、今回は 32%と減っています。その一方、今回初めて参加する方は全体の７割近くいます。アーツ前橋のプレオープン展示中に開催したことで、カフェのテーマをアーツ前橋に絞ったことで、これまでの参加者とは異なる方に興味をもってもらえたのだと考えています。さらに多くの方に、アーツ前橋に興味をもっていただけるよう、次回のカフェを企画していきます。

③ 今後の前橋文化推進会議に最も期待することは何ですか？



その他

・元気 21 に来る１～３才の子どもでも楽しめるアート展示の振興

・どうしたらフレッセイや中央公民館に来る人たちが美術館に親しんでもらえるか、考える

第４回アーツなカフェで行ったアンケートの結果では、期待されている上位二つは、市民周知の広報活動（27%）、市民参画の仕組み作り（27%）でした。今回は、市民周知の広報活動（29%）、多様で質の高い芸術文化（アート）の振興（29%）という結果でした。依然として、広報活動に対する期待が高いです。多様で質の高い芸術文化の振興に資する広報が充実するように活動していきます。

④ 第６回アーツなカフェで開催してほしいことはなんですか？

- ワークショップ
- 講演会など
- 広く浅いきっかけをつくる展示
- テーマを広くあつかってほしい
- アートを勉強できる場づくり
- 他の美術館の活動紹介
- 中心市街地活性化策と合わせた企画についての意見交換はいかがでしょう。
  街全体がアートに満ちた空間になるような。
- 話し合い
- コンサート（気軽なもの）
- マルシェ

⑤ 本日の感想、ご意見、ご質問等

- 参加者に若い人が少ない。
- オシャレ感が強すぎてとっつきづらいかも。
- 運営検討委員会では市民参加の仕組みを三つ提言していました。
  ①サポーター、②評議員、③企画
  ①②の形は見えてきましたが、③の形が見えてきません。文化推進会議が③を担っていくのでしょうか。また③についてはメンバー任期制と提言していたと思います。どのような仕組みになるのか教えていただければと思います。
- 話の中に出てくる写真や画像をリアルタイムにスライドで出せれば良かったと思います。
- 楽しく聞けました。
- テーブルを囲んでお互いの顔が見える形で実施した方がよい。
- 開催時刻を夜間は公共バスが少ないので、昼間午後２時頃からやって欲しい。
- ust の準備はテストをしていた方がいいと感じます。
- 作品をとても親しく感じられる空間だと思いました。気持ちイイ美術館ですね !!
- 行政とはあまり関係がない自由でクリエイティブな活動がみなさんと出来たらいいなと思いました。
- このようなカフェは今後も続くのでしょうか？
- 多様で質の高い芸術文化すぎてついていけない市民の事をどうするのか。きちんと見た時にタイトルと作品が理解できるものにして下さい。
- 前橋文化推進会議についての説明がほしかったです。同会議が主催ということを初めて知りました。
- うしろのほうは話してる人の顔がみえないので、平台一枚でもいいからあがっているとよかったかも。せっかくガラスで外からみえるので、「アーツなカフェ 5th　開催中！よってって !!」みなたいな看板あってもよかった。栗原さんの質問よかった。
- ４人の方の内輪話的トークが多く、また、お話のしかたがメリハリなく少したいくつでした（申し訳ないですが）。もっとパワポ使ってほしいなぁ。館長さんが郊外にある美術館ではなく、まちなかにある美術館なので云々というお話をされていたのを聞いて、すこしうれしく思いました。まちなかの小さな美術館ならではの特色を出していっていただきたいですね。

5th

多くの方にご参加いただきありがとうございました。